マラキ書３章 16 節-4 章６節　神への愛と畏れ

今日は待降節の第四聖日であり、マラキ書の学びを締めくくります。私たちがこの書で見てきたのは、神が本当に自分たちを愛しておられることを切実に知る必要のある神の民でした。その代わりに、彼らはこの聖書個所の句を通して、神に反論し、自分たちの罪深さを否定し、自分たちの間違った礼拝を擁護し、神が自分たちを愛していないと非難してきました。彼らは約束された救い主、メシアを探してはいたのですが、神からのそのメシアの約束に希望と平安と喜びを見出すどころか、メシアの不在は、神がマラキ書１章２節で *わたしはあなたがたを愛している* と言ったことが実際には嘘であったことの証拠だと決めつけてしまったのでした。

マラキ書１章２節 「わたしはあなたがたを愛している。――主は言われる――しかし、あなたがたは言う。『どのように、あなたは私たちを愛してくださったのですか』と。エサウはヤコブの兄ではなかったか。――主のことば―― しかし、わたしはヤコブを愛した。

しかし、この預言書は、神の愛を拒んだ人々に焦点を当てただけで終わるわけではありません。その代わり、マラキ３章 16 節から始まり、４章６節に至るまで、神の愛のメッセージを受け取った少数の人々が、それに対して反論することなく、神が自分たちに与えてくださるものを待ち望みながら、神を畏れ、礼拝する姿が描かれています。この最後の箇所でわかることは、神を恐れることは神の愛を知ることだということです。

まず *マラキ書３章 16 節~4 章６節*を読んでいきましょう。*16 そのとき、主を恐れる者たちが互いに語り合った。主は耳を傾けて、これを聞かれた。主を恐れ、主の御名を尊ぶ者たちのために、主の前で記憶の書が記された。 17 「彼らは、わたしのものとなる。――万軍の主は言われる――わたしが事を行う日に、わたしの宝となる。人が自分に仕える子をあわれむように、わたしは彼らをあわれむ。 18 あなたがたは再び、正しい人と悪しき者、神に仕える者と仕えない者の違いを見るようになる。」*

イスラエルには明らかに、神の言葉を聞いただけでなく、それを受け入れ、神を恐れていることを示すような形で議論した人々がいました。旧約聖書のヘブライ語には恐れを表す言葉が３つありますが、神を恐れるという意味で通常使われるのはこの言葉です。神を畏れ敬うという意味です。それは、神の栄光と聖さから私たちの罪深さにおいてかけ離れているという知識に基づく恐れですが、神に対する恐れは、神がどのようなお方であるか、また神がなさったこと、なさろうとしていること、そして将来なさるであろうことに対して、私たちがどのように敬い、尊敬し、敬意を払うかということに表れます。

神を畏れる者は神についてよく語る事を今日ここで見ていきます。彼らは神について互いに語り合いました。そして彼らは、大多数の人々がしていたような疑問形の議論をしていたわけではありません。文脈から、彼らは神について正反対の見方をしていることがわかります。つまり彼らは、神がどれほど恵み深いお方であるか、どれほど自分たちを愛してくださっているか、神が過去になさったように働いてくださるのをどれほど待ち望んでいるかを語り合っているのでした。

そして、彼らが示した神への畏敬と恐れに対する神の答えは、彼らの名前と神を称える行動をある書に記すことでした。これはとても重要なことです。聖書には、神を知る者は神が保管される書物に記されていると言われている箇所がいくつかあります。黙示録 20 章 11-12 節は、最後の審判は私たちについて書き記されたことに基づいて行われると語っています。

黙示録 20 章 11~12 節 また私は、大きな白い御座と、そこに着いておられる方を見た。地と天はその御前から逃げ去り、跡形もなくなった。 12 また私は、死んだ人々が大きい者も小さい者も御座の前に立っているのを見た。数々の書物が開かれた。書物がもう一つ開かれたが、それはいのちの書であった。死んだ者たちは、これらの書物に書かれていることにしたがい、自分の行いに応じてさばかれた。

そして黙示録３章５節に戻ってみると、こう書かれています。*5 勝利を得る者は、このように白い衣を着せられる。またわたしは、その者の名をいのちの書から決して消しはしない。わたしはその名を、わたしの父の御前と御使いたちの前で言い表す。*マラキ書においても、そのことがここに言及されているようです。神を恐れ、その信仰と信頼を救いの唯一の望みとして神に置く者は、神の命の書に記され、神がその書から彼らを取り除くことは決してありません。彼らは

永遠に安全で安心なのです！旧約聖書で神を恐れていた人々は、神が罪の問題を克服する方法を与えてくださることを信じなければなりませんでしたが、イエス・キリストの初めのご降臨後の歴史に生きる私たちは振り返って、神を畏れる人々に約束された永遠の命を、神が私たちにどのように得ることを可能にしてくださるかを見ることができます。

そして、私たちが *御名を尊ぶ* とき、神が私たちの名前を御書に記してくださるという、なんと素晴らしい約束なのでしょうか。つまり、私たちは神のものなのです！私たちは神の *宝*の一つなのです。そして最も貴重で美しいのは、17 節にあるように、私たちが神の怒りから守られ、免れる神の子どもであるということです。これは、私たちに対する神の愛の美しい描写です。私たちはただ神の御前に出ることを許されただけなく、神の家族の一員として迎え入れられたのです。私たちは神の最も貴重な宝の一つなのです。そして、聖書からわかるように、神はすべてを所有されています！
歴代誌 第一 29 章 11~12 節 主よ、偉大さ、力、輝き、栄光、威厳は、あなたのものです。天にあるものも地にあるものもすべて。主よ、王国もあなたのものです。あなたは、すべてのものの上に、かしらとしてあがめられるべき方です。 12 富と誉れは御前から出ます。あなたはすべてのものを支配しておられます。あなたの御手には勢いと力があり、あなたの御手によって、すべてのものが偉大にされ、力づけられるのです。
その莫大な富のすべてにおいて、神は私たちに、私たちは神の宝であると言われます。つまり、神の所有物、神の子であるがゆえに、この地上で生きる私たちの人生は異なるということです。非常に実際的な言い方をすれば、私たちと周囲の人々との間には違いがある、あるいはあるべきであるということです。18 節はこのように語っています。
18 あなたがたは再び、正しい人と悪しき者、神に仕える者と仕えない者の違いを見るようになる。
そしてその従順、神と神の栄光に対する畏敬の念が、私たちの思考、態度、言葉、行動を、私たちの周りにいる世界や世界の人々とは異なるものにします。周りの人たちの中には、社会の基準から見て道徳的な人もいるでしょうか？もちろんです。しかし神の目から見れば、神に仕えず、イエス・キリストを通して神を信じない者は邪悪なのです。もし今のあなたがそうなら…もしあなたがキリストの信者でないなら、神の目から見れば、あなたは罪人であり、神の御前に邪悪であることに変わりはありません。そして、ヨハネの黙示録を読めば明らかなように、裁きは必ずやって来ます。第 4 章では、神を畏れる者たちに関する神の考えが続きます。読み進みましょう。
マラキ書 4 章 1 節 「見よ、その日が来る。かまどのように燃えながら。その日、すべて高ぶる者、すべて悪を行う者は藁となる。迫り来るその日は彼らを焼き尽くし、根も枝も残さない。――万軍の主は言われる―― 2 しかしあなたがた、わたしの名を恐れる者には、義の太陽が昇る。その翼に癒やしがある。あなたがたは外に出て、牛舎の子牛のように跳ね回る。 3 あなたがたはまた、悪者どもを踏みつける。彼らは、わたしが事を行う日に、あなたがたの足の下で灰となるからだ。――万軍の主は言われる。
神を畏れる者と、神と論争し、神の名を汚す者との違いは、これから起こる裁きに現れています。神を拒む者は滅ぼされ、神を恐れる者は救われます。神の怒りは常に火という言葉で表現されます。そして聖書は、聖書の神を礼拝しないキリストなき者たちの最終的な運命を、炎と苦しみの場所と表現しています。
黙示録 21 章 8 節 *しかし、臆病な者、不信仰な者、忌まわしい者、人を殺す者、淫らなことを行う者、魔術を行う者、偶像を拝む者、すべて偽りを言う者たちが受ける分は、火と硫黄の燃える池の中にある。これが第二の死である。*
イエス御自身、地獄を火の場所と表現されています。マタイによる福音書 5 章 22 節の最後のフレーズにはこうあります。*マタイの福音書 5 章 22 節 しかし、わたしはあなたがたに言います。兄弟に対して怒る者は、だれでもさばきを受けなければなりません。兄弟に『ばか者』と言う者は最高法院でさばかれます。『愚か者』と言う者は火の燃えるゲヘナに投げ込まれます。*
実際、イエスは聖書の中で誰よりも多く地獄について語っておられます。しかし、この滅びの日は、神を畏れる者たちに待ち受けているものと対照的です。火は彼らを傷つけません。実際、彼

らの救いは、私たちが地上で知っている最も温度の高い源である太陽という形でもたらされています。2 節には、*義の太陽が昇る。その翼に癒やしがある*とあります。太陽は熱をもたらすので、もし太陽が私たちの惑星にこれ以上近づいたなら、私たちはみな燃え尽きてしまうでしょう。しかし、太陽は光ももたらします。太陽は植物に活力を与え、私たちの体内にもビタミン D を作ります。そして、この*義の太陽*とは、他ならぬイエス・キリスト御自身のことを指しています。イエス・キリストは、救いを求めて彼に立ち返る人々に、罪に対する完全な癒しを与え、そうすることで神への畏れを示されます。ルカによる福音書 1 章では、バプテスマのヨハネの父ゼカリヤが息子のヨハネをイエスの先駆者として預言したとき、イエスは曙として描写されています。

力の福音書 1 章 76~79 節 幼子よ、あなたこそ いと高き方の預言者と呼ばれる。主の御前を先立って行き、その道を備え、 77 罪の赦しによる救いについて、神の民に、知識を与えるからである。 78 これは私たちの神の深いあわれみによる。そのあわれみにより、曙の光が、いと高き所から私たちに訪れ、 79 暗闇と死の陰に住んでいた者たちを照らし、私たちの足を平和の道に導く。

イエスは、罪の闇に囚われたこの世界を照らす光でした。

ベツレヘムの飼い葉桶から、私たちの罪からの完全な癒しを与えるために、*義の太陽*として来られたのです。私たちは、罪に絡め取られたままこの人生を引きずったり、罪の代償を払って永遠に生きるわけでも、天国に行くために煉獄を経験するわけでもありません。そうではなく、私たちは霊的に *牛舎の子牛のように跳ね回る*のです。私たちは、生まれたばかりの子牛のようなエネルギーと命の新しさを持っています。しかし、この新しい命は決して老いることはありません。完璧な創造主によって与えられた完璧な存在の活力とともに過ごす永遠なのです。そして、私たちはキリストの究極的な勝利の一部となり、悪者たちは象徴的に私たちの*足の下の灰* となります。

しかし、私たちを創造し、愛してくださる神に私たちを再び結びつけるのは、単なる信仰の言葉ではありません。神がすでに向き合われた祭司や民は、その後に及んで神を礼拝し従っていると言っていますが、その礼拝は偽りで中途半端なものであることを忘れてはなりません。しかし、神への真の信仰、神への真の畏れは、結果として従順をもたらします。マラキ書の最後の数節、4-6 節を見ましょう。

あなたがたは、わたしのしもべモーセの律法を覚えよ。それは、ホレブでイスラエル全体のために、わたしが彼に命じた掟と定めである。 5 見よ。わたしは、主の大いなる恐るべき日が来る前に、預言者エリヤをあなたがたに遣わす。 6 彼は、父の心を子に向けさせ、子の心をその父に向けさせる。それは、わたしが来て、この地を聖絶の物として 打ち滅ぼすことのないようにするためである。

この箇所でモーセとエリヤが一緒に言及されているのは偶然ではありません。モーセとエリヤは、キリストの変容でもイエス御自身と一緒に登場します。私たちは少し前にマルコ書でこの出来事を見ました。モーセは創世記から申命記にかけて神の掟を定め、神の被造物である私たちが、神の聖さへの期待とその意味を知ることができるようにしました。神を畏れる者は、神がホレブ山でモーセに与えた戒めを覚えます。この覚えるということは、考えるということ以上に、生活の中で戒めに従うということです。これが神を敬い、神を恐れる事なのです。私たちは罪が完全な従順を不可能にしていることは知っていますが、私たちの人生の方向性は従順に焦点を合わせています。ユージン・ピーターソン氏は、その著書『A Long Obedience in the Same Direction（同じ方向への長い従順）』のタイトルで、弟子としてのあり方を完璧に表現しています。神を畏れること、キリストの弟子であることとは、本当はこういうことなのです。神に栄光を帰すための私たちの生涯、従順を深めていく生涯の歩みなのです。それは短距離のスプリントではなく、長距離のマラソンであり、山あり谷ありですが、ゴールは一つであり、方向は一つです。

メリカ合衆国には、かつて独自の国であった唯一の州テキサスがあります。そして、テキサスがメキシコから独立するための戦いの中で、歴史を変えた一つの戦いがありました。アラモの戦いです。テキサスはメキシコとの戦いに敗れ、182 人の兵士がメキシコからの自由を求めて戦死し

ました。しかし、その戦いは、最終的にメキシコからの独立を勝ち取るための叫びとなりました。その叫びとは 「アラモを思い出せ」でした。戦いや兵士としての訓練で落胆したり、戦いが不利になり始めたりしたとき、1836 年当時のテキサス人なら、「アラモを思い出せ！」という力強い言葉に励まされたことでしょう。私たちが人生を歩む中で罪と戦い、落胆するとき、神は私たちに御言葉を振り返り、「*律法を覚えよ*」と呼びかけられているのです。
イエス・キリストの再臨を待つ間、神の言葉を思い出し、従順に神の言葉に目を向け、その言葉から力を得なさい。そしてその時こそ、エリヤの登場です。旧約聖書のこれらの最後の聖句の数節で、モーセは私たちに、過去における神の御業と、神が御言葉の中で御自身を現された始まりを振り返ることを強いています。しかし、この聖書箇所にはエリヤが登場し、私たちをキリストの再臨へと導いています。それが、聖書における*主の日*の典型的な意味するところです。これは難しい言及であり、その意味については多くの分かれた意見があります。一般的に一致しているのは、バプテスマのヨハネがこのエリヤの再来の預言を、完全ではないにせよ、少なくとも部分的には成就したことです。ルカ書 1 章 16-17 節は、バプテスマのヨハネについてこう語っています。
ルカの福音書 1 章 16~17 節
Luke 1:16 イスラエルの子らの多くを、彼らの神である主に立ち返らせます。 17 彼はエリヤの霊と力で、主に先立って歩みます。父たちの心を子どもたちに向けさせ、不従順な者たちを義人の思いに立ち返らせて、主のために、整えられた民を用意します。」
バプテスマのヨハネは、イスラエルの人々にメシア、イエス・キリストを迎える準備をさせました。ディスペンセーション的な神学を信奉するクリスチャンの中には、黙示録の中で、キリストの再臨の前に本来のエリヤが再臨し、キリストが再臨する最後の時を告げると信じている者もいます。しかし、バプテスマのヨハネによる成就は明らかであり、それは私たちをイエスへと導き、イエスの最初の到来と将来の再臨を何らかの形で指し示しています。キリストの来臨に備えない者にとっては*大いなる恐るべき日*が来るのです。黙示録 22 章 12-13 節で、イエスはこう語っています。イエスは　黙示録 22 章 12~13 節でこう言われます。*「見よ、わたしはすぐに来る。それぞれの行いに応じて報いるために、わたしは報いを携えて来る。 13 わたしはアルファであり、オメガである。最初であり、最後である。初めであり、終わりである。」*
もしあなたが罪を悔い改めておらず、イエス・キリストを主であり救い主として受け入れていないなら、*主の大いなる恐るべき日*は、あなたを恐れさせ、神に立ち返らせるはずです。旧約聖書の最後の言葉、イエス・キリストのご降臨の前に神が発する最後の言葉で明らかにしているように、*わたしが来て、この地を聖絶の物として 打ち滅ぼすことのないようにするためである。*神は裁かれるお方です。神はヤコブへの愛ゆえに選んだ御自身の民の罪を見過ごさず、私たちの罪も見過ごされません。その罪に対する唯一の答えは、*義の太陽*、イエス・キリストです。イエス・キリストはヨハネによる福音書 8 章 12 節でこう述べています。
ヨハネの福音書 8 章 12 節 イエスは再び人々に語られた。「わたしは世の光です。わたしに従う者は、決して闇の中を歩むことがなく、いのちの光を持ちます。
その光があなたの心を照らすまで、あなたは罪の呪いと神の怒りの下にあるのです。しかし、2500 年近く前のマラキ書 1 章 2 節でイスラエルの民に告げられたその同じ神が、今も同じことを告げておられ、その*義の太陽*を通して、この世で最も偉大な愛を経験することができるのです。そして、教会員の皆さん、あなたが落胆し、人生が困難になった時、世界が救い主に背を向けたために、あなたにも背を向けているように見える時、あきらめてはいけません！*律法を覚えよ*、律法を思い出しなさい！御言葉に立ち返ってください。そして、ヨハネの福音書 3 章 16 節をて、神の私たちへの愛を見てください。*ヨハネの福音書 3 章 16 節　神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。*
祈りましょう。

Malachi 3:16-4:6 Love and Fear

Today is the fourth Sunday of Advent, and we will close our study of Malachi. What we have seen in this book, is a people of God who desparately need to see that God really does love them. Instead, throughout the verses, they have argued with him, denied their sinfulness, defended their false worship and accused God of not loving them. They were looking for a promised Savior, a Messiah, but rather than finding hope and peace and joy in that promise from God, they decided the absence of the Messiah was a sign that God really was lying when he said in verse 2 of Malachi 1, "I have loved you." But this book of prophecy does not end focusing on the ones who rejected God's love. Instead, starting in Malachi 3, verse 16 and going through the 6 verses of chapter 4, we see a small number of people who received God's message of love and who did not argue in response, but instead feared and worshipped God, as they looked forward to what God had for them. **What we see in this final passage is that to fear God is to know God's love.**

Let's begin by reading Malachi 3:16-18. 16 Then those who feared the Lord spoke with one another. The Lord paid attention and heard them, and a book of remembrance was written before him of those who feared the Lord and esteemed his name. 17 "They shall be mine, says the Lord of hosts, in the day when I make up my treasured possession, and I will spare them as a man spares his son who serves him. 18 Then once more you shall see the distinction between the righteous and the wicked, between one who serves God and one who does not serve him. There were clearly some in Israel who not only heard God's Words but accepted them and discussed them in a way that showed they feared God. There are three words for fear in the Hebrew of the Old Testament, and this is the word that is normally used for fearing God. It is a term meaning to honor him with reverance and respect. It is a fear based on our knowledge of being so far removed in our sinfulness from God's glory and holiness, but that fear of God shows in how we have reverance, honor and respect for who he is and what he has done, is doing and will do in the future. Those who fear God will speak about him often, and that is what we see going on here. They were speaking to each other about God. And they were not doing this with the same questioning arguments that the majority of the people were doing. From the context, you can tell that they have the opposite view of God. So they are discussing how gracious God is, how much he loves them, and how they long to see God work as he has in the past.

And God's response to this reverence of him, this fear they showed was to write down their names and their actions of glorifying him in a book. Now this is important. There are several places in Scripture where we are told that those who know God are written in a book that he keeps. Revelation 20:11-12 speaks about the final judgement being based on what is written down about us. 11Then I saw a great white throne and him who was seated on it. From his presence earth and sky fled away, and no place was found for them. 12And I saw the dead, great and small, standing before the throne, and books were opened. Then another book was opened, which is the book of life. And the dead were judged by what was written in the books, according to what they had done. And looking back at Revelation 3:5, we read, 5 The one who conquers will be clothed thus in white garments, and I will never blot his name out of the book of life. I will confess his name before my Father and before his angels. This seems to be the reference here in Malachi as well. Those who fear God, whose faith and trust is in him as their only hope for salvation are written in God's book of life and he will never remove

them from that book. They are safe and secure for eternity! Those who feared God in the Old Testament had to trust that God was providing a way to overcome their problem of sin, but now on this side of history after Jesus Christ's first Advent, we can look back and see how God would make it possible for us to have this promised eternal life to those who fear him.

And what a tremendous promise this is that God is writing our names in His book, when we "esteem his name!" It means that we are His! We are part of his "treasured possession." And most precious and beautiful, we are one of his children who will be protected and spared from his wrath according to verse 17. This is a beautiful description of God's love for us. We are not just allowed into his presence, no... we are welcomed into his family. We are among his most precious and treasured items. And as we know from Scripture God owns everything! 1Chronicles 29:11 through the first part of 12 says, 11 Yours, O Lord, is the greatness and the power and the glory and the victory and the majesty, for all that is in the heavens and in the earth is yours. Yours is the kingdom, O Lord, and you are exalted as head above all. 12 Both riches and honor come from you, and you rule over all. In all of that immense wealth, God tells us that we are his treasured possession. This means that our lives lived here on earth are different because of being God's possession, God's child. In a very practical way, there is a difference (or there should be) between us and the people around us. Verse 18 is saying this when it tells us, 18 Then once more you shall see the distinction between the righteous and the wicked, between one who serves God and one who does not serve him. We respond to God's love for us in fear that brings obedience, and that obedience, that reverence for God and for his glory makes our thoughts, our attitudes, our words, and our actions different from the world and the people in our world who are around us. Are some of them moral by society's standards? Yes, they are. But in God's eyes, those who are not serving him and believing in him through Jesus Christ are wicked. If that describs you today... if you are not a follower of Christ, then in God's eyes you remain a sinner and wicked before him. And judgement will come as the passages we read in Revelation make clear.

This is what we see as chapter 4 continues God's thoughts regarding those who are fearing him. Let's read Malachi 4:1-3. 4 "For behold, the day is coming, burning like an oven, when all the arrogant and all evildoers will be stubble. The day that is coming shall set them ablaze, says the Lord of hosts, so that it will leave them neither root nor branch.2 But for you who fear my name, the sun of righteousness shall rise with healing in its wings. You shall go out leaping like calves from the stall. 3 And you shall tread down the wicked, for they will be ashes under the soles of your feet, on the day when I act, says the Lord of hosts. The difference between those who fear God and those who argue with God and dishonor his name is seen in the judgement that is coming. **Those who reject God will be destroyed, and those who fear God will be saved.** The wrath of God is always described in terms of fire. And the Bible describes the ultimate fate of those without Christ who do not worship the God of the Bible as being a place of flame and torment. Revelation 21:8 says, 8 But as for the cowardly, the faithless, the detestable, as for murderers, the sexually immoral, sorcerers, idolaters, and all liars, their portion will be in the lake that burns with fire and sulfur, which is the second death." Jesus himself describes hell as a place of fire. The last phrase of Matthew 5:22 says, whoever says, 'You fool!' will be liable to the hell of fire. In fact Jesus says more about hell than anyone else in the Bible.

But this coming day of destruction is contrasted against what is in store for those who fear God. Fire will not hurt them. In fact their salvation comes in the form of the hottest element we know on earth – the sun! Verse 2 says the sun of righteousness shall rise with healing in its wings. The sun brings heat, and if it were any closer to our planet, we would all be burned up. But the sun also brings light. It brings health to plants and even to our bodies in the form of vitamin D. And this reference to the sun of righteousness is talking about none other than Jesus Christ himself. He gives perfect healing to sin for those who turn to him for salvation and in so doing show the fear of God. In Luke chapter 1 as John the Baptist's father, Zechariah prophesied about his son John as the forerunner of Jesus, Jesus is described as the sunrise. Luke 1:76-79 says, 76 And you, child, will be called the prophet of the Most High; for you will go before the Lord to prepare his ways, 77 to give knowledge of salvation to his people in the forgiveness of their sins, 78 because of the tender mercy of our God, whereby the sunrise shall visit us from on high 79 to give light to those who sit in darkness and in the shadow of death, to guide our feet into the way of peace." Jesus was the light who shined into this world that is trapped in the darkness of sin. From a manger in Bethlehem he came as the sun of righteousness to offer complete and total healing from our sin. We aren't limping along through this life entangled by sin or living in eternity paying for our sin or experiencing some sort purgatory to get us into Heaven. No, instead we are spiritually "leaping like calves from the stall." We have the energy and newness of life of a newborn calf. But this new life will never grow old. It is an eternity spent with the vitality of a perfect existence given to us by a perfect Creator. And we will be part of Christ's ultimate victory as the wicked symbolically become "ashes under the soles of [our] feet."

But it is not simply words of faith that reconnect us to God who created us and loves us. Remember that the priests and people that God has already addressed still say they are worshipping and following God, but their worship is false and half-hearted. But a true faith in God, **a true fear of God will result in obedience**. Look at the final verses of Malachi, verses 4-6. 4 "Remember the law of my servant Moses, the statutes and rules that I commanded him at Horeb for all Israel. 5 "Behold, I will send you Elijah the prophet before the great and awesome day of the Lord comes. 6 And he will turn the hearts of fathers to their children and the hearts of children to their fathers, lest I come and strike the land with a decree of utter destruction." It is not a coincidence that Moses and Elijah are mentioned together in this passage. Moses and Elijah also appear together with Jesus himself on the Mount of Transfiguration. We looked at this event in Mark not too long ago. Moses laid out the law of God in Genesis through Deuteronomy so that as God's creatures we can know his expectations of holiness and what that entails. The one who fears God will remember the commandments that God gave to Moses at Mount Horeb. This remembering is more than thinking about, but following them in our lives. This is how we honor God, how we fear him. We know that our sin makes perfect obedience impossible, but the direction of our lives is focused on obedience. Eugene Peterson described discipleship perfectly in the title of his book, *A Long Obedience in the Same Direction*. This is what fearing God, being a disciple of Christ really is. It is a lifelong walk of increasing obedience to bring God glory in our lives. It is not a sprint, but a marathon, with ups and downs but one goal and one direction.

In the United States, we have one US state that used to be its own country – Texas. And in the Texas fight for independence from Mexico, there was one battle that took place that changed history. It was the battle of the Alamo. The Texans actually lost that battle against Mexico and 182 men died fighting for Texas freedom from Mexico. But that battle became the rallying cry for them to eventually win independence from Mexico. The cry was "remember the alamo." When you get discouraged in battle or training as a soldier or the fight begins to turn against you, as a Texan in 1836 you would have been encouraged by those powerful words, "Remember the alamo!" In our battle with sin and discouragement as we go through our lives, God is calling us to look back at His Word and "Remember the law." Remember the Word of God, look to the Word of God in obedience and gain strength from that Word as you await the return of Jesus Christ. And that is when Elijah comes into the picture. In these final verses of the Old Testament Moses is forcing us to look backward at God's work in the past, and the beginning of Him revealing himself in His Word. But then we have Elijah in this passage, connecting us somehow to Christ's returns. That is typically what the Day of the Lord is referring to in Scripture. This is a difficult reference with a lot of disagreement concerning what it means. Where there is general agreement is that John the Baptist fulfilled this prophecy of the return of Elijah at least in part if not fully. Luke 1:16-17 speaking about John the Baptist says, And he will turn many of the children of Israel to the Lord their God, 17 and he will go before him in the spirit and power of Elijah, to turn the hearts of the fathers to the children, and the disobedient to the wisdom of the just, to make ready for the Lord a people prepared. John the Baptist prepared the people of Israel to receive their Messiah, Jesus Christ. Some Christians who are more Dispensational in their theology believe that in Revelation, the original Elijah will return before Christ's return to announce a final time that he is coming. Perhaps, but there is clear fulfillment with John the Baptist that then points us to Jesus and in some way his coming the first time as well as his future return. There is a day coming that will be great and awesome, and fearful for those who are not prepared for Christ's coming. In Revelation 22:12-13, Jesus tells us, [12] "Behold, I am coming soon, bringing my recompense with me, to repay each one for what he has done. [13] I am the Alpha and the Omega, the first and the last, the beginning and the end."

If you have not repented of your sins and accepted Jesus Christ as Lord and Savior, then that great and awesome day of the Lord should cause you to fear and turn to God. As he makes clear in his final words of the Old Testament, the final statement God will make before the Advent of Jesus Christ, I come and strike the land with a decree of utter destruction. God is the judge...he did not overlook the sin of his own people, who he chose out of love for Jacob, and he will not overlook our sins either. The only answer to that sin is the Sun of righteousness, Jesus Christ, who said in John 8:12, "I am the light of the world. Whoever follows me will not walk in darkness, but will have the light of life." Until that light shines in your heart, you remain under the curse of sin and the wrath of God. But through that Sun of Righteousness, you can experience the greatest love in the world, from the same God who told the people of Israel nearly 2500 years ago in Malachi 1:2 I have loved you, and still says the same thing today. And Church as you get discouraged and life gets difficult, when the world seems to turn against you because they turn against our Savior, don't give up! Remember the law! Turn to God's Word, and see the love of our God who "so loved the world, [according to John 3:16] that he gave his only Son, that whoever believes in him should not perish but have eternal life. Let's pray.